

Ⅱ テーマ分析

ここでは、全国平均や体力合計点が上位の都府県と体力・運動能力の状況や質問紙調査の結果について比較し、クロス集計等により分析した結果を掲載しています。

市町村教育委員会においては、地域の児童生徒の実態把握や分析を行う際の資料として、御活用ください。

小・中学校においては、体力向上の取組の柱である体育科・保健体育科の授業改善はもとより、体育・保健体育授業以外の取組や、体育的行事を含めた教科等横断的な教育活動の一層の充実に向けた資料として、御活用ください。

本道児童生徒における体力の現状分析 (全国平均や他の都府県との比較及び各種目の経年変化)

ここでは、実技に関する調査の結果や結果の経年変化、全国や上位都府県との比較から、本道児童生徒の体力・運動能力の特徴に注目した。小・中学校ともに、全国平均を上回っている種目はあるものの、体力合計点が全国平均に届いていないなどの課題が見られた。ポイントは次のとおりである。

- Point 1 本道の児童生徒は、全国の児童生徒と比較し、「握力」の結果が上回っている傾向にあるが、小・中学校ともに、「上体起こし」や「20mシャトルラン」などに課題が見られた。
- Point 2 各種目の経年変化においては、小・中学校男女ともに、調査開始当初と比較し、「長座体前屈」において、記録の上昇が見られる。
- Point 3 R1の結果とR4の結果(同一母集団)を比較すると、中学校女子においては、体力合計点総合評価A・B群の生徒の割合が増加したが、体力合計点を含め、各種目のT得点がR1より減少している。

(1) 実技に関する調査にかかわる本道の結果と全道及び全国の結果との関係

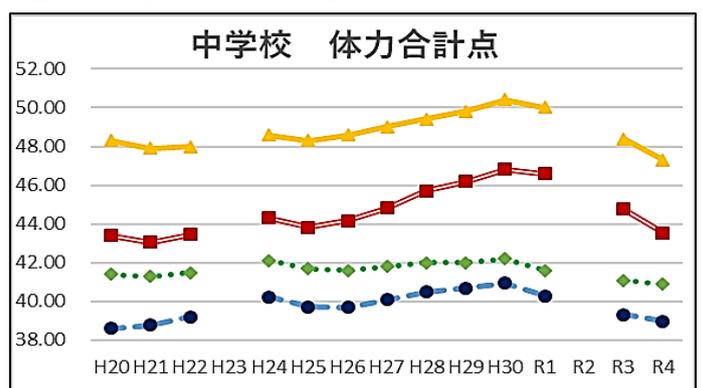
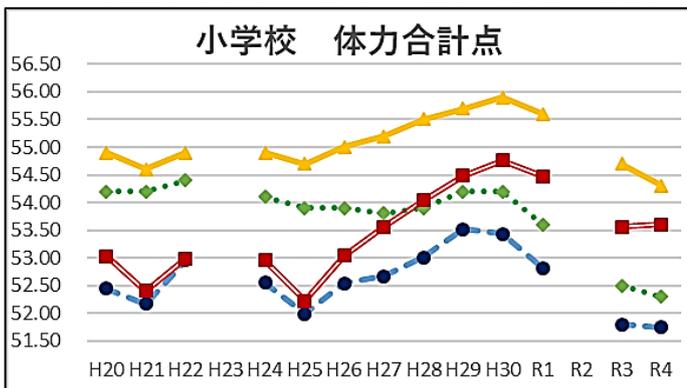
- 体力合計点の経年変化においては、小・中学校男女ともに調査開始当初からH30をピークに上昇していたが、H30から低下している。
- 小学校男女及び中学校男子においては、「握力」において、全国及び上位都府県を上回っている。
- 小・中学校男女ともに、体力合計点総合評価は、全国及び上位都府県と比較して、A・B群の割合が低く、D・E群の割合が高い。
- 各項目の経年変化において、小学校では、男女ともに「長座体前屈」において記録が上昇しており「握力」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」、「立ち幅とび」において回復傾向が見られる。また、中学校では男子の「握力」において回復傾向が見られるものの、その他の種目においては、低下傾向である。

小・中学校男女ともに、回復傾向が見られる種目があるものの、体力合計点や各種目の記録が全国平均に届いておらず、全国や上位都府県と比較し、総合評価のD・E群を占める児童生徒の割合が高いことから、児童生徒がもてる力を十分に発揮することができるよう、道教委が公表している参考資料等を活用しながら、一人一人の課題に応じた指導を充実させる必要がある。

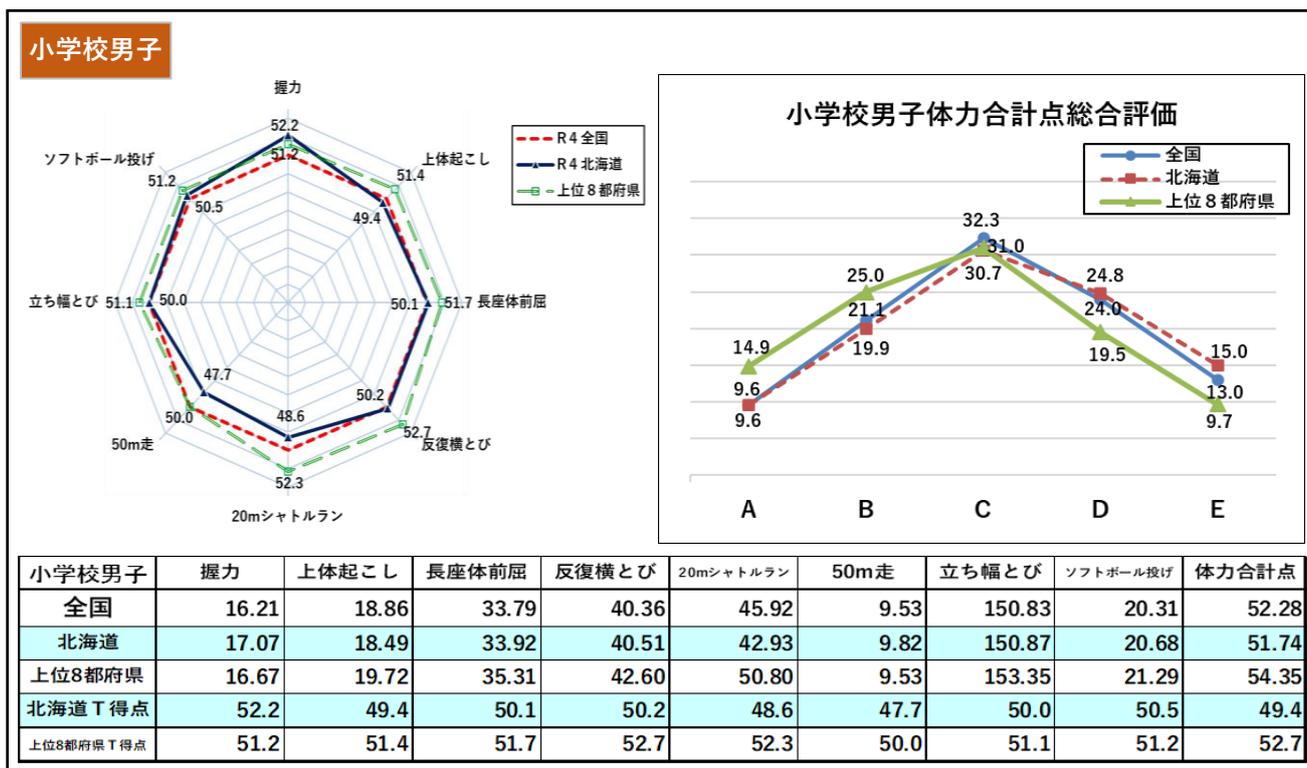
①全国及び全道の小学校男女及び中学校男女における体力合計点の経年変化

※H23（東日本大震災）及びR2（新型コロナウイルス感染症の感染拡大）については中止

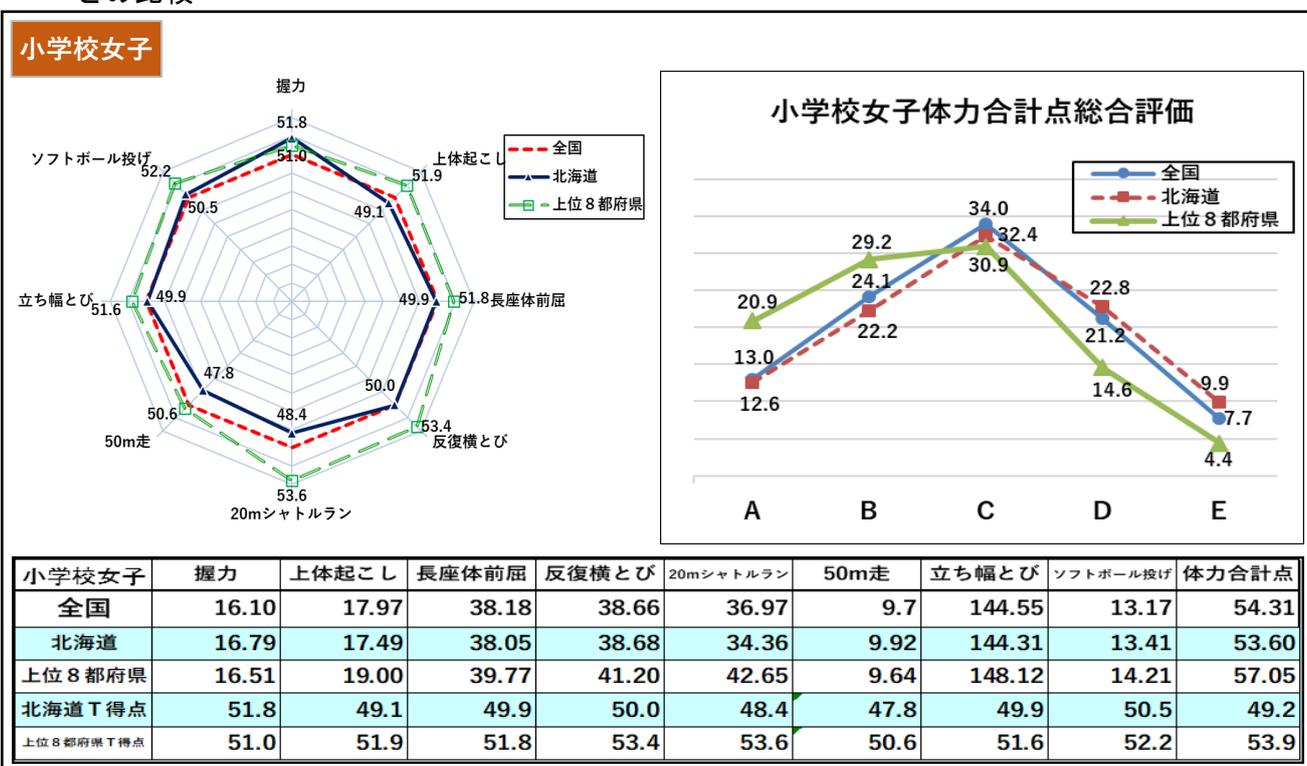
※青点線：全道小学校男子 緑点線：全国小学校男子 赤二重線：全道小学校女子 黄色実線：全国小学校女子



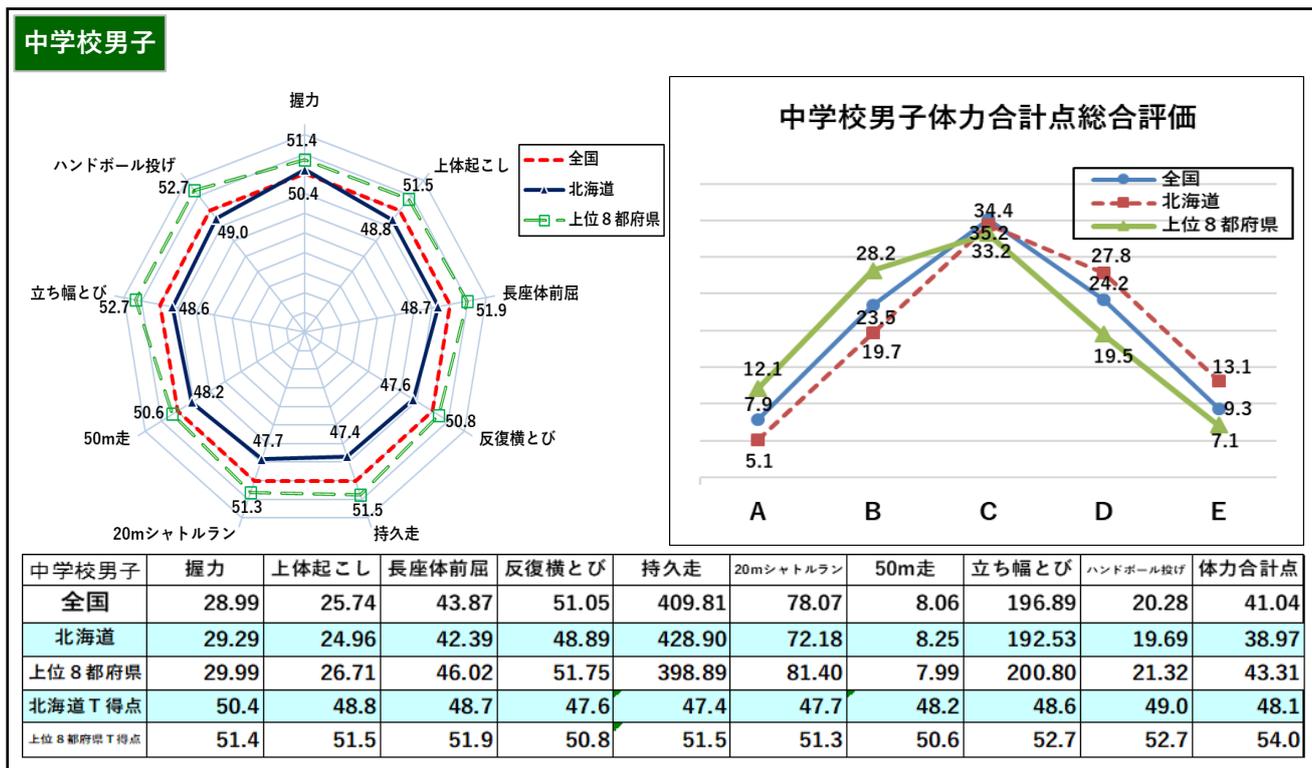
②本道小学校男子の体力合計点及び体力合計点総合評価と全国平均及び上位8都府県の平均値との比較



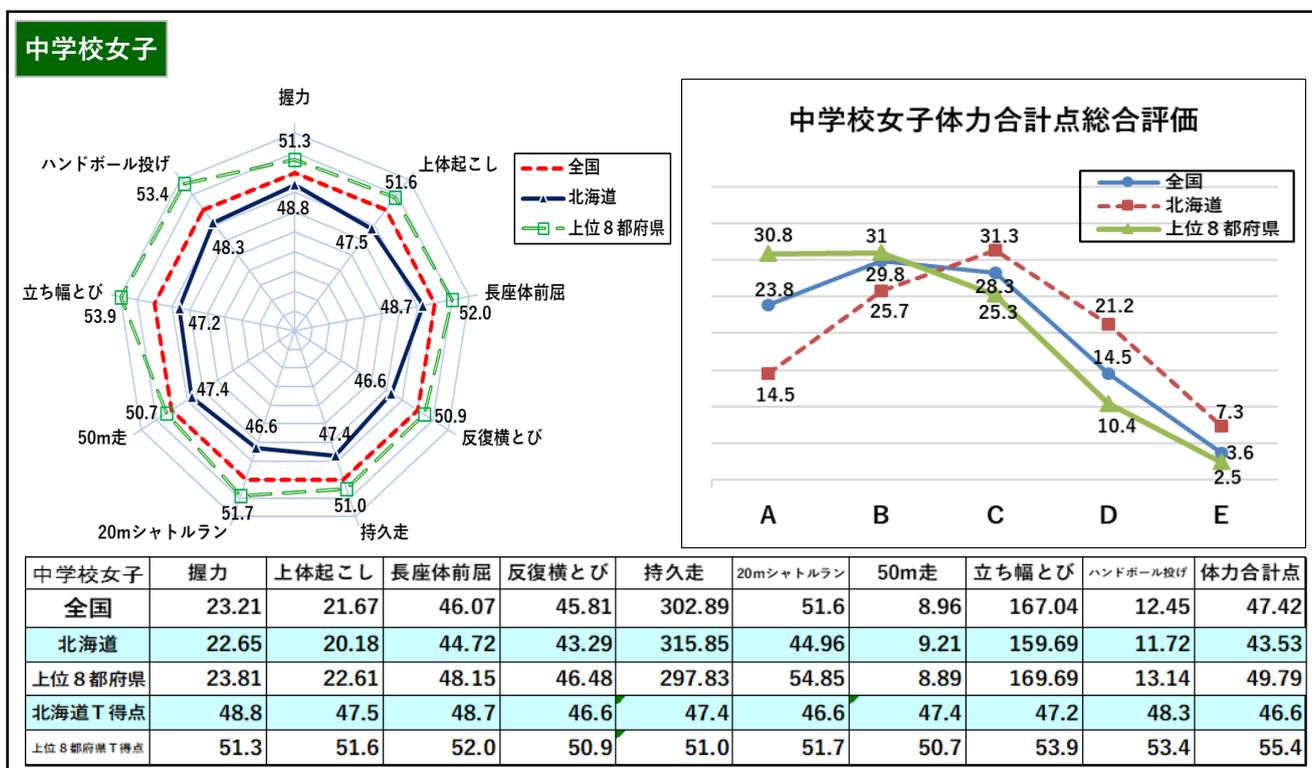
③本道小学校女子の体力合計点及び体力合計点総合評価と全国平均及び上位8都府県の平均値との比較



④本道中学校男子の体力合計点及び体力合計点総合評価と全国平均及び上位8都府県の平均値との比較



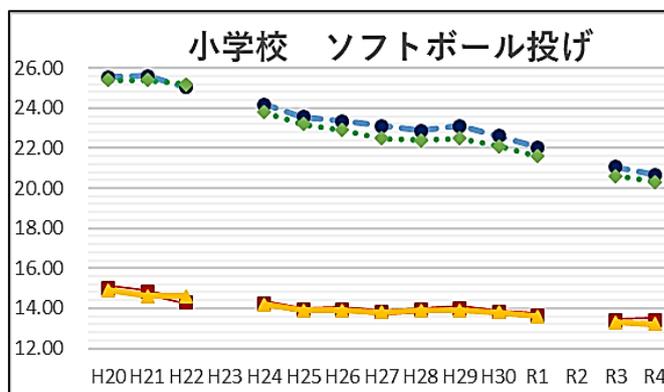
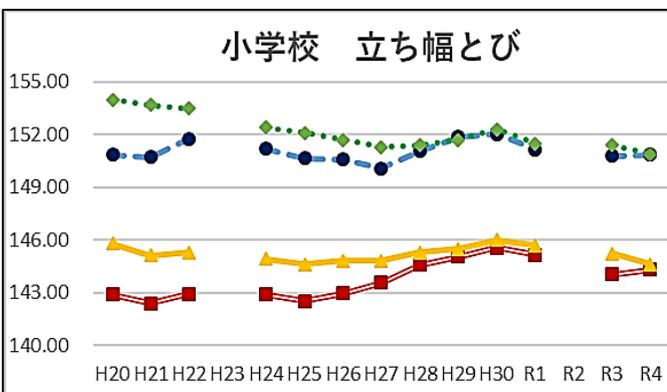
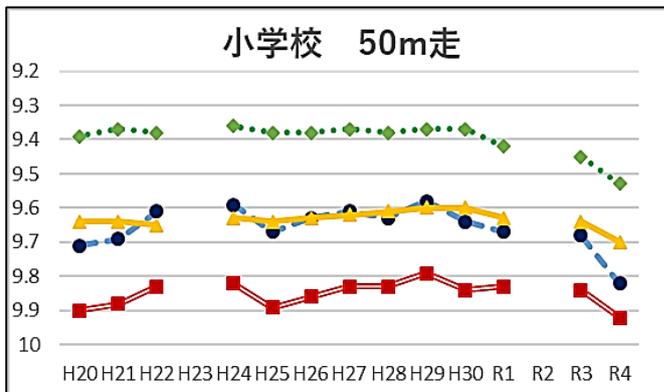
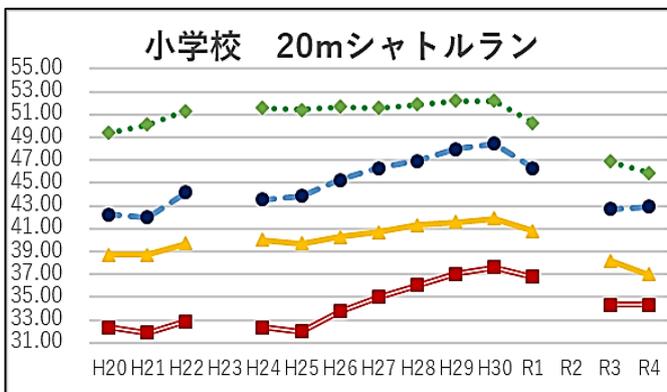
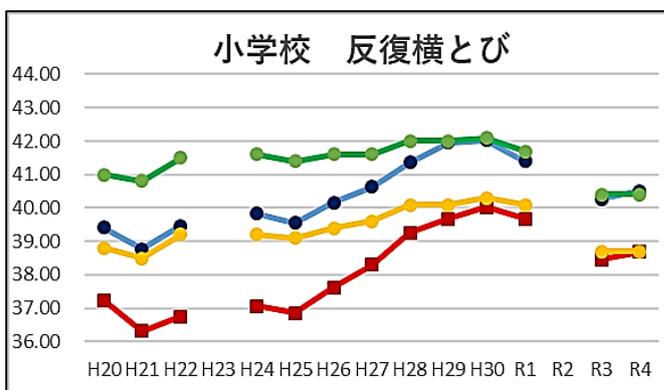
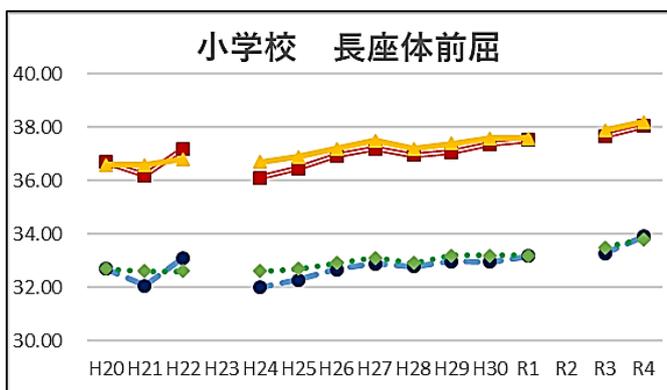
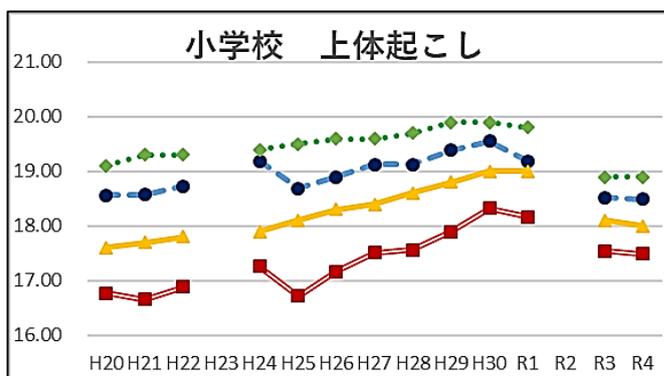
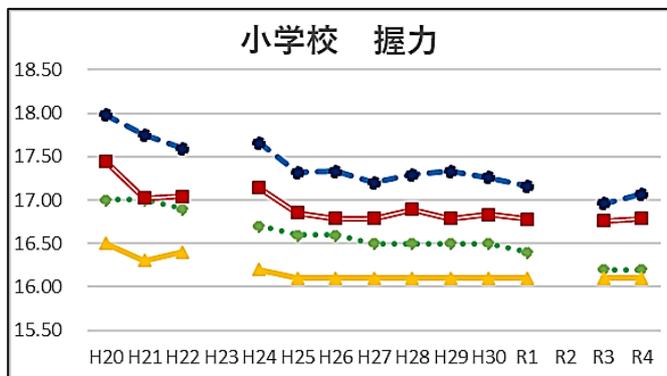
⑤本道中学校女子の体力合計点及び体力合計点総合評価と全国平均及び上位8都府県の平均値との比較



⑥全国及び全道の小学校男女の各項目における経年変化

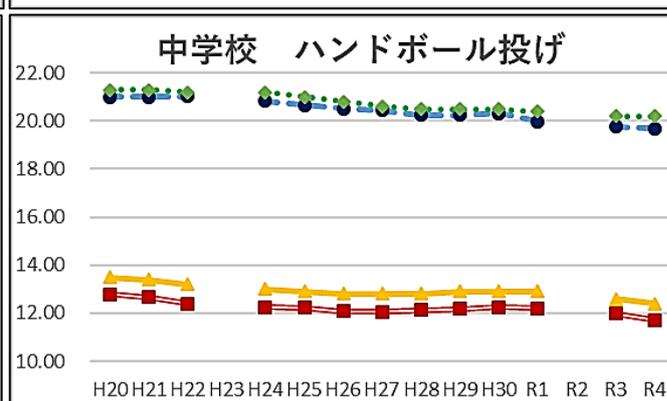
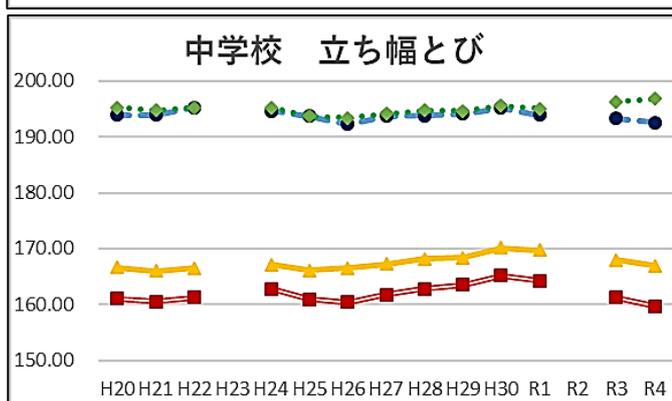
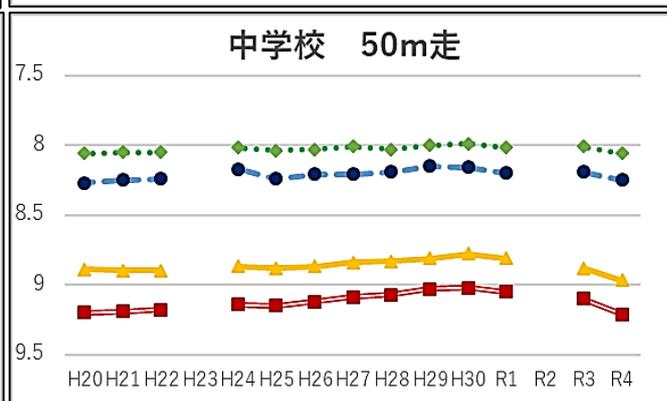
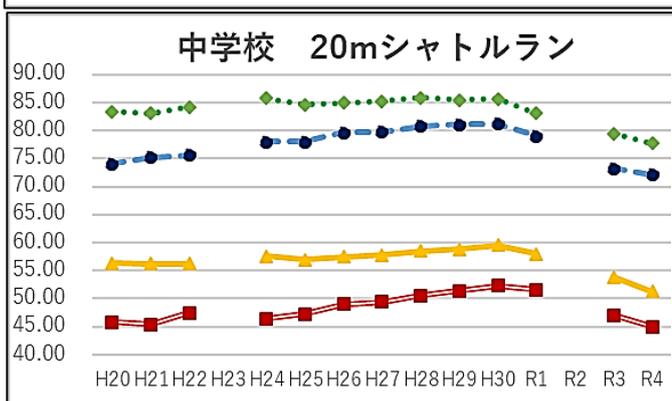
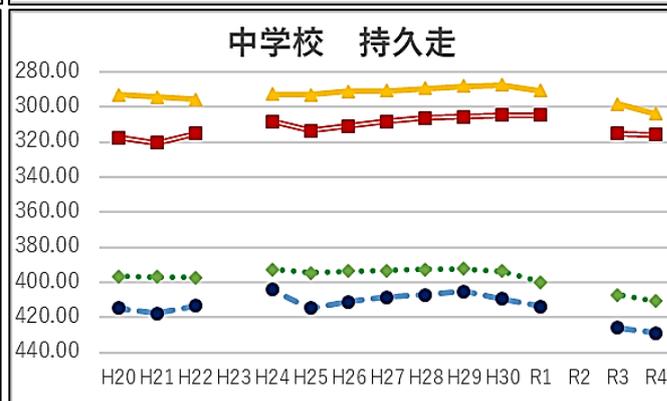
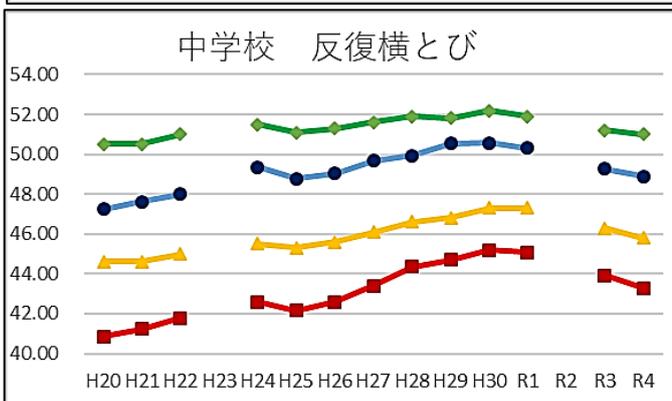
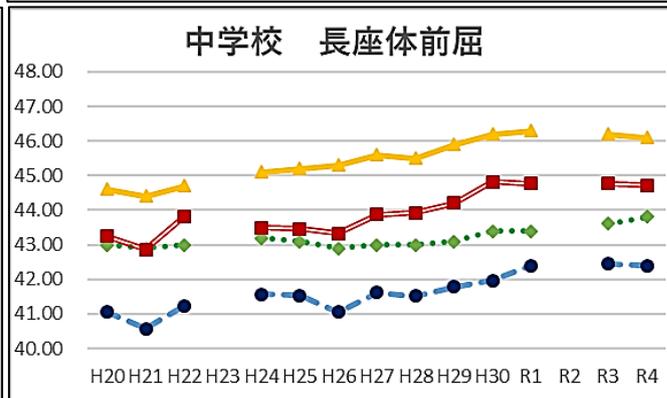
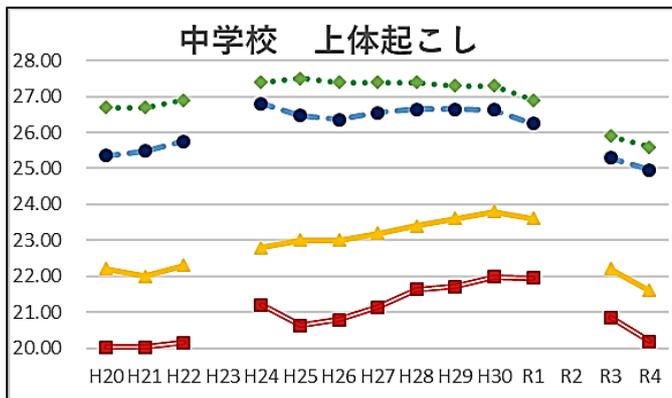
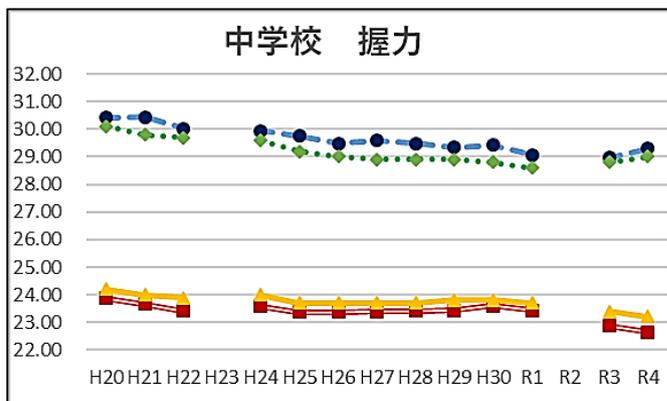
※H23（東日本大震災）及びR2（新型コロナウイルス感染症の感染拡大）については中止

※青点線：全道小学校男子 緑点線：全国小学校男子 赤二重線：全道小学校女子 黄色実線：全国小学校女子



⑦全国及び全道の中学校男女の各項目における経年変化

※H23（東日本大震災）及びR2（新型コロナウイルス感染症の感染拡大）については中止

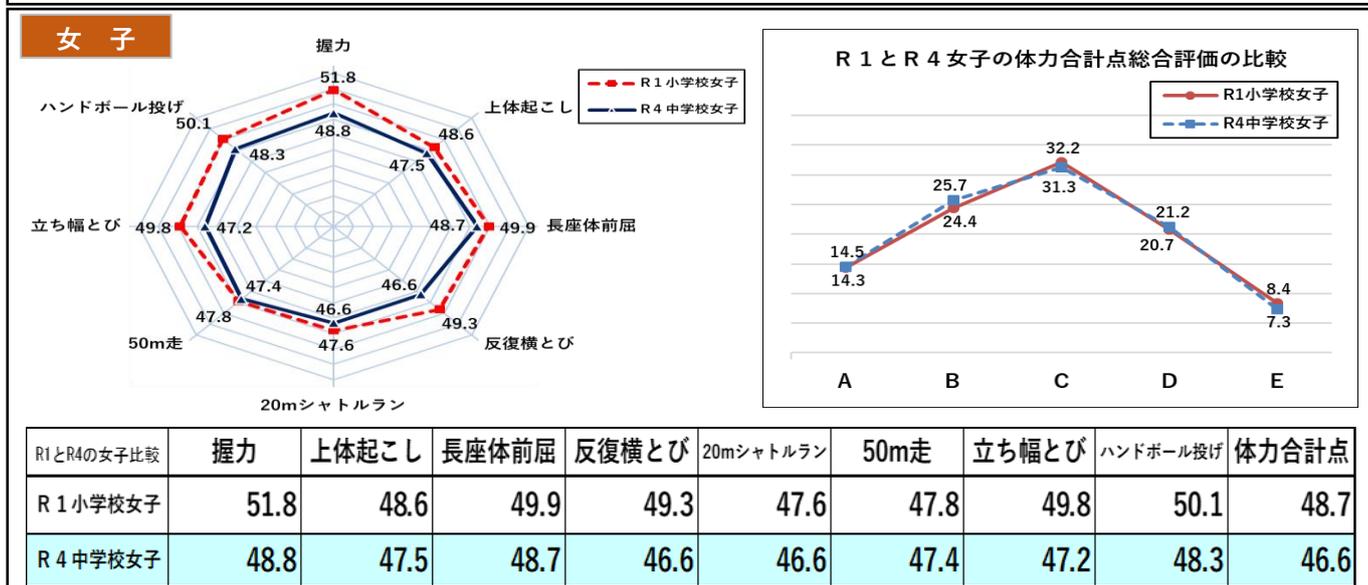
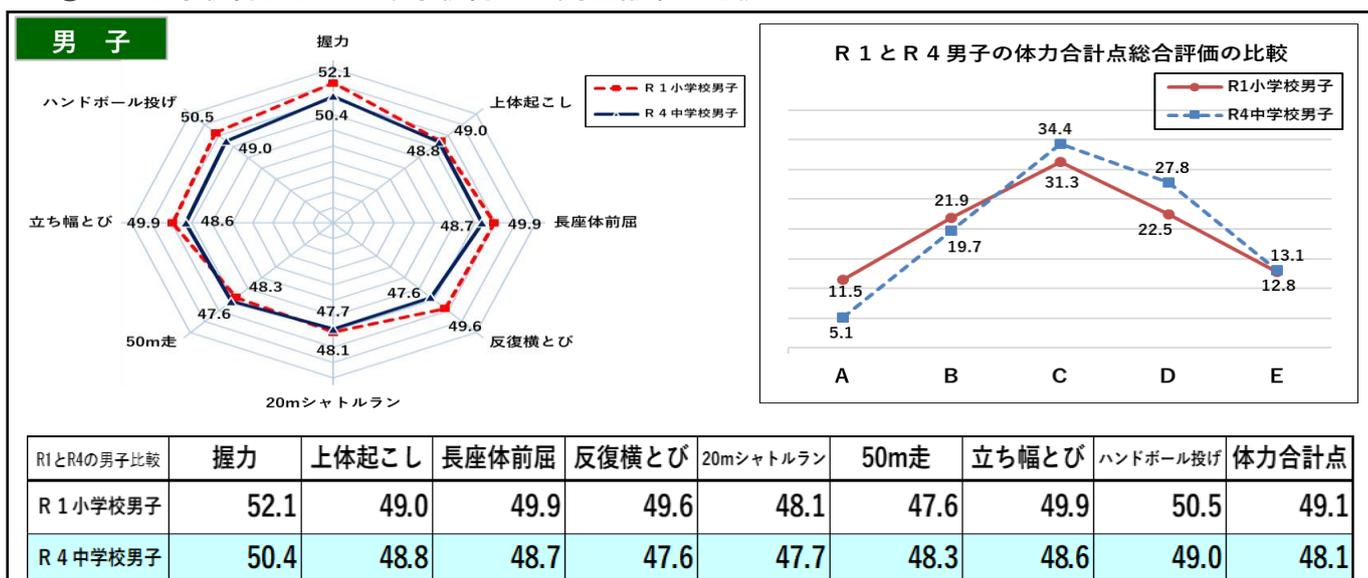


(2) R1の小学校男女における調査結果とR4の中学校男女における調査結果の比較

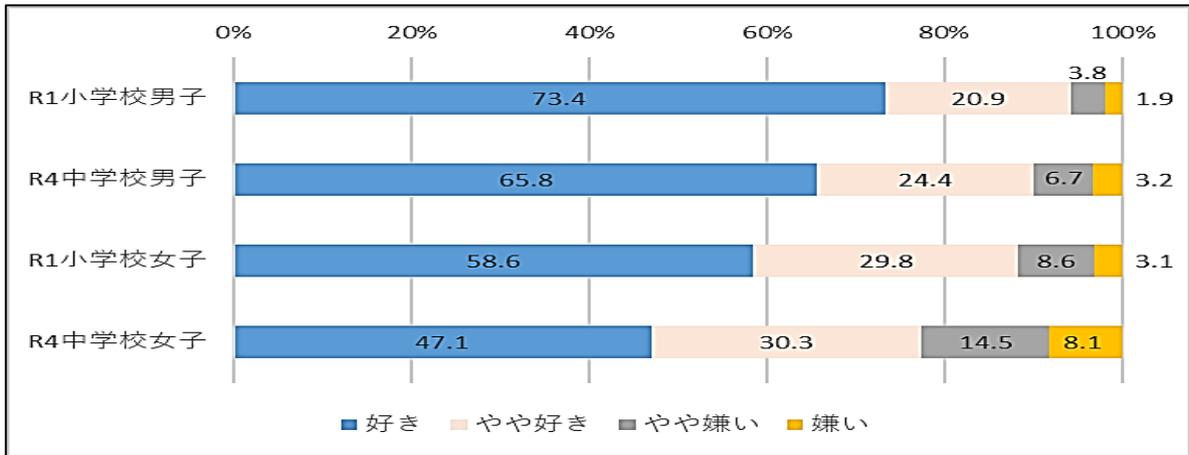
- 男子においては、R1及びR4の調査結果を比較し、50m走においてT得点がR1より上昇しているが、体力合計点を含め、その他の種目については、R1よりT得点が減少している。特に、反復横とびのT得点の減少が大きい。
- 女子においては、R1及びR4の調査結果を比較し、体力合計点総合評価「A」「B」の生徒が増加したが、体力合計点を含め、各種目のT得点がR1より減少している。特に、握力、反復横とび及び立ち幅とびの減少が大きい。
- 児童生徒質問紙調査における共通項目の経年変化においては、小・中学校男女ともに、各項目において肯定的に回答している児童生徒の割合が低下している。

小学校においては、全国平均と比較し、体力合計点の差が縮まるなど、改善の兆しが見られている一方、中学校においては、女子において総合評価A・Bの生徒が増加しているものの、全国平均との差が広がっていることから、小学校の成果が中学校に継続されるよう、小・中学校間における系統的な指導の充実が図られる必要があると考える。

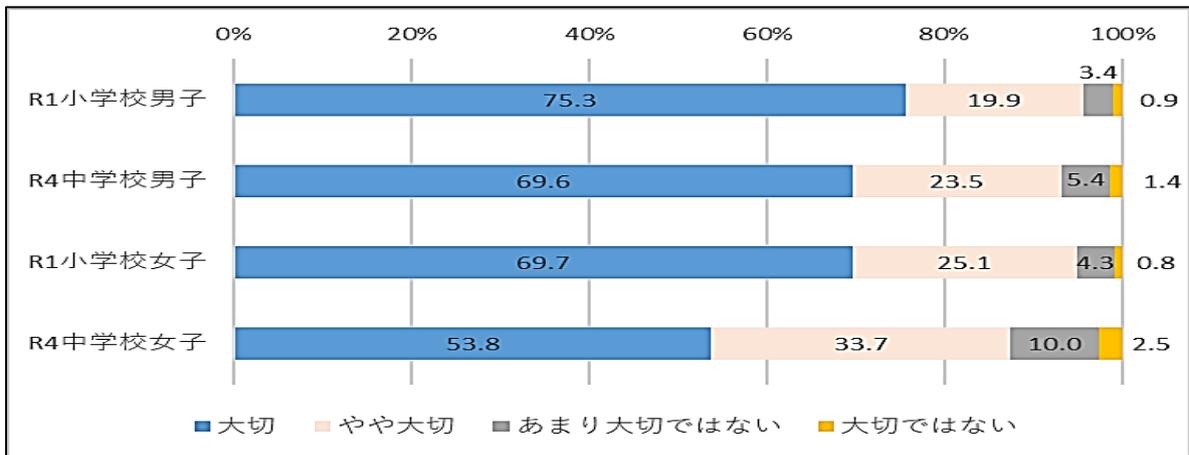
① R1小学校男女とR4中学校男女の調査結果の比較



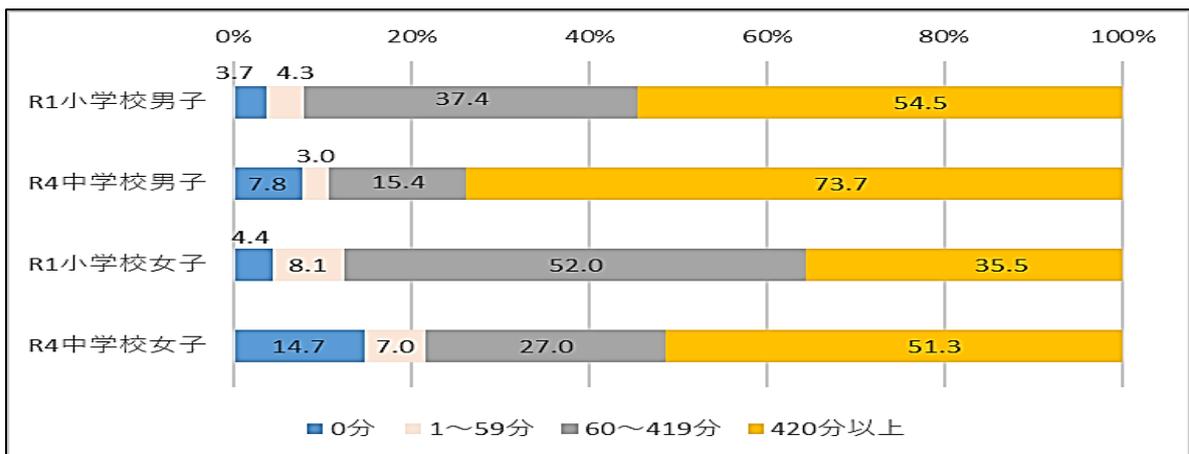
② R1小学校男女とR4中学校男女の「運動やスポーツに対する愛好的態度」の項目についての回答の比較



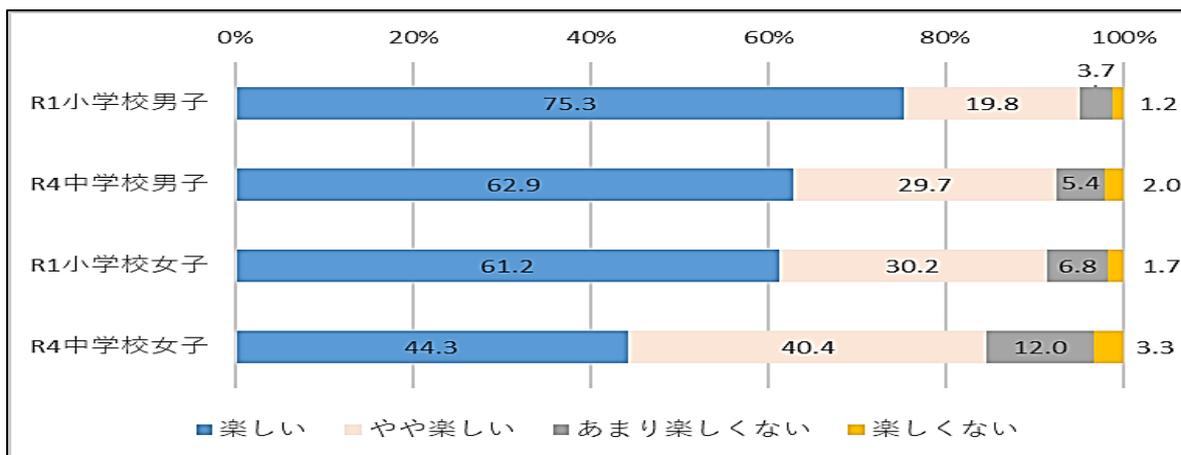
③ R1小学校男女とR4中学校男女の「運動やスポーツの必要性」の項目についての回答の比較



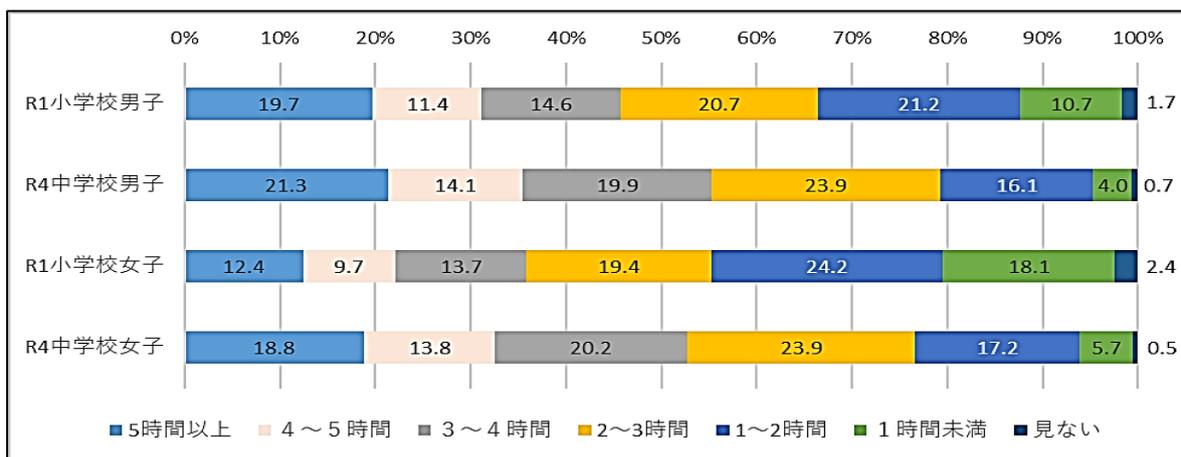
④ R1小学校男女とR4中学校男女の「1週間の体育の授業以外の運動時間」の項目についての回答の比較



⑤ R1 小学校男女と R4 中学校男女の「体育の授業に対する愛好的態度」の項目についての回答の比較



⑥ R1 小学校男女と R4 中学校男女の「平日の学習以外における画面の視聴時間」の項目についての回答の比較



まとめ

「平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(スポーツ庁)では、テスト項目を「20m シャトルラン(持久走)」、「50m走」、「ボール投げ」の運動能力系と、「握力」、「上体起こし」、「長座体前屈」、「反復横とび」、「立ち幅とび」の体力系の2つのグループに分けて比較した際、運動能力系のテスト項目が平均値を超えている児童生徒は、体力系のテスト項目が平均値を超えている児童生徒よりも、運動や体育・保健体育授業に対する愛好的な回答の割合が高いことが分かっている。

本道児童生徒の実技調査の結果を分析すると、体力系(「大きな力を出す能力」や「大きく関節を動かす能力」)の項目においては、高い評価結果であったり、上昇傾向であったりするものの、運動能力系(「すばやく移動する能力」や「筋力を持続する能力」、「運動を持続する能力」)の項目に課題が見られることから、バランスのよい体力を育てていく必要がある。

小・中学校の時期は、体力・運動能力が大きく向上することから、児童生徒一人一人が課題を的確に把握するとともに、課題の解決に向け、体育科・保健体育科の授業改善を一層推進し、授業の質の向上を図るとともに、運動習慣や適切な生活習慣を身に付け、バランスよく体力・運動能力を高めることが、生涯の体力・運動能力を保つことにつながる。